

掛川地域の地層と化石の観察 : 冬季巡検会報告(平成2年12月16日実施)

著者	森 通済
雑誌名	静岡地学
巻	63
ページ	31-32
発行年	1991-06-16
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00025401

掛川地域の地層と化石の観察

——冬季巡検会報告(平成2年12月16日実施)——

森 通 濟*

JR掛川駅北口に9時50分集合。今回、40名ほどの参加者のうち、小学生ぐらいの子供たちが10名を占めていた。同駅から徒歩で北に向かい、快晴の中、掛川城跡を右手に見ながら国道1号線を横断する。さらに歩いて、掛川バイパスが倉真川にかかる所が第1露頭(Loc. 1)であった。この露頭は新第三系の大日層の砂岩の上に宇刈層の砂岩・泥岩互層が見られた。案内者の間嶋氏からの説明によれば、この露頭で見られる大日層(貝化石を含む部分から上に向かって、より細粒の砂に変化する部分まで)は、大あらしが原因で比較的、短時間に形成されたということであった。また、この露頭には以前から多くの人が化石採集におとずれているようである。そのため、露頭の一部には大きな穴があき、その上にある茶畑が崩れそうな状態であった。『比の附近の掘削を禁止する。地主』と書かれた看板も立っていたが、化石採集や岩石採集の際には、他人に迷惑をかけないように注意が必要である。巡検参加者は、露頭下に落ちていた化石だけを採集した。第2露頭(Loc. 2)：西郷層に大日層が不整合で重なる(写真1)。西郷層の泥岩は固結していて硬いが、水がついている部分は軟らかい状態に変化していた。その西郷層の上位に礫岩(中礫)を含む大日層がのる。第3露頭(Loc. 3)：大日層の砂岩中を通る素掘りトンネルであった。途中には鉄製のパイプ部分もあったが、大日層の層相を観察することができた。第4露頭(Loc. 4)：大日層の堆積構造の一部を観察。第5露頭(Loc. 5)：大日層中の貝化石などの採集も行う(写真2)。今回の巡検では、大日層を中心に地層を構成するもの(泥・砂・礫・化石など)や、地層の構造についての観察。それから不整合の観察、地層が形成される時の過程などを勉強することができた。ただ、以前にくらべ土地改造などともなう化石産地の減少のため、化石採集がむづかしくなってきたことがあらためて感じられた。巡

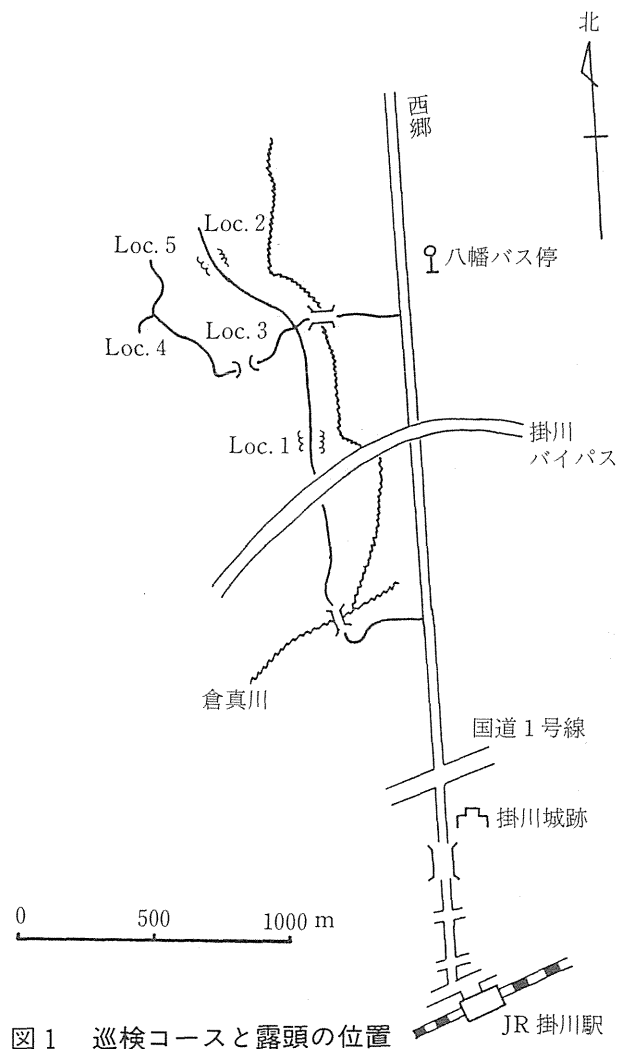


図1 巡検コースと露頭の位置

*静岡市春日3丁目2番11号



写真1 第2露頭
西郷層に大日層が不整合で重なる
(写真中の補助線は両層の境界)



写真2 第5露頭
大日層からの化石採集

検は昼食をはさみ 13 時 30 分には“八幡”のバス停で解散、終了した。巡検案内者の間嶋隆一氏をはじめ、資料作製その他準備をされた人々、ありがとうございました。

◎ 巡検会アンケート

今後の巡検会の企画の参考にするため、今回参加者に簡単なアンケートを行った。それによると、巡検会の実施時期は 7・8 月と 12・1・2 月がよい（7 名）が多い。交通については、公共機関利用がよい（2 名）、があったが、マイカー方式（6 名）の方が多い。以下に寄せられた感想等を記す。

今回の巡検でよかった点

- 化石がたくさん採集できた。
- 天気がよく日程もよい。
- 公共交通機関のみの使用がよい。
- 天気がよく、事前資料があつてよい。
- 時間の余裕があつた。
- ストームによる堆積が興味深かつた。
- 説明が詳しく、300 万年前を偲ぶことができた。
- 説明がとても分かりやすかつた。
- 堆積の過程についての考えが聞けたこと。
- 専門的な新しい学説が聞けたこと。
- 堆積の話、化石の話。
- 化石床を見られたこと。
- 大日層の化石の露出地を見られたこと。
- 説明が分かりやすく面白い。新しい考えに触れた。
- 堆積についての新しい考えが聞けたこと。
- 化石の層の生成、地域を知ることができたこと。